

アジア建築家評議会(ARCASIA) ACA21 参加報告

2025年9月8日～12日 韓国・仁川

2025年9月8日から12日まで韓国・仁川にて開催されたアジア建築家評議会(ARCASIA) ACA21について、参加者の方からご報告いただきます。

開催地： 韓国・仁川

期 間： 2025年9月8日～12日

参加者： 柳澤要 ACAE 委員、竹馬大二 ACPP 委員、新居照和 ACGSA 委員、櫻井伸 ACSR 委員、早矢仕アレマン 耕平 ACYA 委員、国広ジョージ元 ARCASIA 会長
学生 2名：杉本新奈さん、田中稀乃香さん

スケジュール：

9月 8 日 委員会、Welcome Dinner

9月 9 日 理事会

9月 10 日 理事会、AAA Ceremony

9月 11 日 基調講演、Opening Ceremony, Architects' Night

9月 12 日 基調講演、Friendship's Night

ACA21の概要

竹馬大二 (JIA国際委員会アドバイザー / ACPP 委員)



●概要

2025年9月8日から12日まで韓国・仁川にて開催されたアジア建築家評議会(ARCASIA) ACA21は、「A Better Tomorrow」をテーマに、アジア各国の建築家及び建築団体が集い、共に未来志向の建築・都市・環境のあり方を議論する場であった。日本建築家協会(JIA)からも代表団が参加し、日本国内における設計・監理制度やサステナビリティ対応の実践を共有しつつ、アジア地域での制度・文化・技術の多様性を直接に確認する貴重な機会となった。JIAとしては、アジア建築コミュニティにおいて自らの専門性と社会的責任を改めて位置づけ、国際的な交流機会の深化につながる参加であった。

●理事会

ARCASIA理事会は、9月9日および10日に開催され、加盟団体間の協働方針、委員会活動報告、賞制度・学生設計競技の運営、次回大会開催地などが議題とされた。JIAからは、テーマに上がった「建築行政における建築家の役割」に対して、横

建築教育委員会(ACAE)

柳澤 要 (JIA国際委員 / ACAE 委員)



第45回アルカジア教育委員会(ACAE)は2025年9月8日(月)10:00～16:00に開催された。委員会には加盟22か国中16か国が参加した。通常は前年度の活動報告(組織体制、大学の建築教育、教育認定、研究・教育、講演会・セミナー国際会議、学生コンペ、出版・展示など)を行うが、前年度の第44回教育委員会が2025年1月14日に延期になり半年しか経過していないということで、今回は“Designing the 2040 Architect: Competencies for a Changing World”をテーマに各国の提案・報告がなされた。さまざまな意見や提案があったが、未来に向けてのアジア建築教育のマニフェスト(デジタル技術の活用、さまざまな専門家との



Welcome Dinner 参加者の集合写真



理事会の様子

浜市の都市デザイン室の活動を紹介した。韓国では自治体により Chief Architect が外部から任命され、公共建築のコンペ審査や設計者選定、都市景観の整備に関する役割を負っているとのことで、社会に対する建築家の地位向上の参考になる事例であった。なお、次回大会(第22回大会 : ACA22)はパキスタン・ラホール(Lahore)にて2027年に開催されることが決定された。

(ちくば だいじ／日建設計)

協力、サステナブルデザイン、インクルーシブデザイン、倫理面の重視、グローバルな視野など)としてまとめられ承認された。

(やなぎさわ かなめ／千葉大学)



ACAE 集合写真

職能委員会(ACPP)

竹馬大二 (JIA国際委員会アドバイザー / ACPP委員)

本大会において、ARCASIAの専門委員会であるProfessional Practice委員会(ACPP)は、アジア地域における建築家の実務環境・資格制度・倫理および技術協働の現状を中心議題に議論を

行った。特に、国境を越えた設計・監理の共同実践、若手建築家の参画促進、デジタル変革(DX)におけるAIの導入、環境規制強化への対応、さらに設計契約や業務スコープの国際標準化の必要性が焦点となつた。ACPPは今後、アジア域内における建築プロフェッショナルの質的向上と連携強化を図るための基盤構築を推進するものである。
(ちくば だいじ／日建設計)

グリーン・サステナブル建築委員会(ACGSA)

新居照和 (ACGSA委員)



テーマは「明日を築く：気候、コミュニティ、テクノロジーの交差点にある建築」。

気候変動対応・地域共生・技術革新を柱に、アジア各国の持続可能建築の方向性を共有する。バングラデシュは気候適応型・地域参加型建築、タイはグリーンファイナンスと脱炭素化、デジタルツインとBIM。インドは自然共生とスマート技術、インドネシアは循環型経済と地域知、教育改革を重視。マレーシアは都市再生と社会的格差是正、香港はスマートシティ構想、AIとBIM。シンガポールは2030年までに全建築の8割にするグリーン化政策。フィリピンは竹建築や炭素回収技術。パキスタンは在来素材と植林運動、韓国はZEB建築とAIによるデジ



ACGSA 集合写真

タルツイン都市など、16か国から発表があつた。

全体として、「持続可能」から進み、地域社会と自然が共生する「回復的・再生的建築」へと転換しつつあつた。

(にいてるかず／新居建築研究所)

建築家の社会的責任委員会(ACSR)

櫻井 伸 (JIA国際委員 / ACSR委員)



2025年9月8日に韓国・仁川で開催されたARCASIA ACA21のACSR(建築家の社会的責任)委員会に参加した。委員会には加盟国22か国のうち、Web参加1か国を含み18国が参加した。

委員会の冒頭、今年1月にスリランカ・コロンボで開催されたForum22で“Charter on Social Responsibility(ACSR憲章)”が承認されたこと、4月末にタイ・バンコクで開催されたACSR WORKSHOPの報告が行われた。

Forum22に引き続き、Marginalized Community(孤立したコミュニティ)をテーマとして、参加国から具体的なプロジェクトについて報告が行われた。貧困、災害対策・災害復興、地理的孤立、性的差別、都市開発によるスラム化など、それぞれの国が抱える問題はさまざまであり、紹介されたプロジェクトについてもシェルターから都市計画まで多岐にわたつていて。

また、もう1つのテーマであるUniversal/Wellness Design



ACSR 集合写真

については、ACAEとの協働により学生を対象としたDesign Competitionの開催を決議し、その実施内容について議論を行つた。このCompetitionに関するイベントは年末から来年早々にインドネシアで開催される予定である。

(さくらい しん／久米設計)

● AAA Ceremony

9月10日、AAA Ceremony(アルカジア建築賞授賞式)が行われました。

そのなかでStudent Design Competitionの表彰も行われ、日本からは、Student Jamboreeにも参加した杉本新奈さん(千葉大学)がファイナリストに選出され、表彰されました。



AAA Ceremonyの様子



杉本新奈さん(表彰者の右から2番目)がStudent Design Competitionのファイナリストに選出

若手建築家委員会(ACYA)

早矢仕アレマン耕平(JIA国際委員/ACYA委員)



各国の若手建築家で構成されるACYA委員会は、2025年9月8日に開催された。加盟22か国中15か国が参加し、「若手建築家の建築における包括性と多様性への関与」を主題として、作品や研究、若手支援の取り組みが紹介された。

なかでも、タイ王立建築家協会による若手国際発信プラットフォーム構想、マレーシア建築家協会の若手出版支援制度、シンガポール建築家協会とACYAの共同SNSプロジェクト、インドネシア建築家協会のメンタリングプログラムなど、若手を積極的に育成・発信しようとする姿勢が特に印象深かった。各国の状況は異なるものの、若手育成への意識は共通しており、こうした取り組みは、近年若手会員が減少が課題となっている



ACYA集合写真

JIAにとっても多くの示唆を与えるものであった。

(はやしあれまん こうへい／早矢仕アレマン建築アトリエ)

展示

柳澤 要(JIA国際委員/ACAE委員)

展示会は3日目の2025年9月10日から松島コンベンションセンターのホール1で開催された。

展示内容は、ARCASIA Awards for Architecture, ARCASIA Students' Design Competition, TOY (ARCASIA Thesis of the Year), ARCASIA Ar. Barry Will Award, Green ASIARCHの各受賞および最終選考作品、各国建築家協会からの報告などで、韓国の子どもたちが作成した未来の建築模型の展示もあった。JIAからは3点(伊藤瑞貴「h+BASE」、藤原徹平「CHIDORI TERRACE」、早矢仕アレマン耕平「Two Houses in Wiesendangen」)が出展された。

(やなぎさわ かなめ／千葉大学)



17年ぶりの韓国開催とARCASIAの精神

国広ジョージ(元ARCASIA会長)



2025年9月8日から12日、韓国・仁川でアジア建築家評議会(ARCASIA)の大会「ACA21」が開催された。元ARCASIA会長として公式に招かれ、JIA佐藤会長を団長とする日本代表団と共に参加した。韓国での開催は2008年10月以来、17年ぶりである。会場は首都ソウルではなく仁川であったため、華やぎは控えめで、滞在は主にホテルと会場の往復となった。

とりわけ印象に残ったのは山本理顕氏の講演である。代表作の紹介に加え、現在取り組むベネズエラのバリオ再計画につい

て熱く語った。その最中、突然私が名指しで壇上に呼ばれ、国際バリオシンポジウムのイベントまとめ役を任せたいとの提案を受ける一幕があった。実現には至らなかったが、会場のどよめきとともに私自身も大いに驚かされた。

ARCASIAの精神は“One Family”に象徴される。最終日に開催される恒例の「フレンドシップナイト」では、加盟24団体のうち出席した各団体が演目を披露し、JIAは阿波踊りをファレル・ウィリアムスの「Happy」に合わせて披露した。こうして2025年の大会は、熱気に包まれたフレンドシップナイトで幕を閉じた。

(くにひろ ジョージ／プランテック)



山本理顕氏の講演



フレンドシップナイトでJIAは阿波踊りを披露